

授業科目

サプライチェーンマネジメント学

1. 機能別の効率化を進める個別最適の総和は全体最適にならない
2. サプライチェーンマネジメントは全体の流れに注目して最適化する
3. 経営資源(リソース)のムダが無くなり企業収益力が最大化される

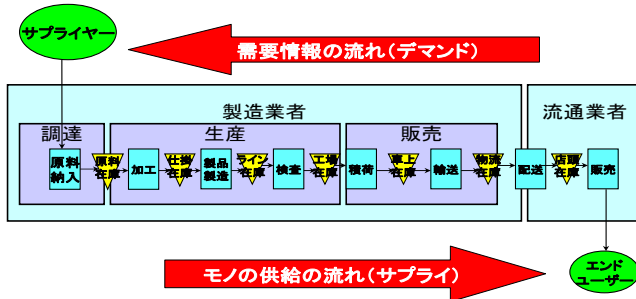


今岡 善次郎

(株) ビジデザイン  
代表取締役

メッセージ

サプライチェーンマネジメントは技術論から捉えたモノの流れ制御に着目した経営論である。セル生産やリーン生産など生物との類推ができるフィードバック制御系の特徴について利益体質の源泉としてのビジネス(経営)のダイナミクス(力学)について、そのメカニズムと人間中心の組織論を複合するエンタープライズ・アーキテクチャ(企業構造)について論ずる



科目概要 :

開発・資材調達・生産・物流・販売までの仕事は企業内外の組織を超えてグローバルに連鎖している。機能中心の組織が連鎖する業務間の連携のムダを生むことで利益体質を劣化させる。サプライチェーン(供給連鎖)マネジメント(以下 SCM)とは、組織よりも人、人を活かす情報技術を重視し、連鎖業務を横串でマネジメントし、利益体質を向上する企業構造(アーキテクチャー)を構想する方法論である。最新の情報技術を前提として成功のための仕掛け(メカニズム)や組織原理を実例と類推でサプライチェーンのエンタープライズ・アーキテクチャー(企業構造)論を、ピーター・ドラッカーの経営原理やメタファー(比喩)を使って考察する。

<https://www.ciolinks.jp/user/?id=78>

又連鎖する仕事と在庫の概念を一般化して、製造物流の領域だけではなく、研究開発、勉強、アルバイト、NPO活動、家事等への原理応用できることを学ぶ。

学習目標 :

- (1) 技術者が縦割りの専門分野に陥って、局部効率だけを目指すことなく、経営全体の最適化を指向する知見を得る。
- (2) 技術者にとって、他分野の技術や営業や調達などとの連携の重要性を理解し、経営者として必要な収益向上のメカニズムを理解する。
- (3) ドラッカーの経営原理の中でサプライチェーンマネジメントの原理を理解する

モジュールの構成 :

1. SCMの基礎(起源・狙い・定義)
2. SCMの成功事例
3. 成功法則の抽出
4. ドラッカー経営原理とサプライチェーン・エンタープライズ・アーキテクチャー
5. ITとビジネスモデルの進化

区分 : 応用科目  
 分野 : 技術管理分野  
 目的 : 先端技術産業の活動から生じうるリスクを科学的に理解できる能力の育成  
 単位数 : 2